

携帯電話 携帯電話の機械が写るのはOK
 機器のドコモやau等のマークが写るのはNG
 →ロゴマークにシールを貼って隠すなどの工夫をしてください。

商品名 コーラ OK
 コカコーラ NG

商標名が一般名として広く知られているもの
 オセロ NG

- ドキュメントにおいては、多くの場合、企業名やロゴ等が映り込んでしまっても、意図的に入れていなければ問題にしないこととなりました。
インタビューの背景に看板が写っていた。
→ただし、こちらからお店の看板の前を選んでインタビューするようなことはしないでください。
取材相手が企業名のついた服、制服を着ている。
→着替えてくださいとは言えない。
野球場などで、看板が映る。
→NHKの高校野球中継でも打球を追う際には映り込んでいます。
大会などの場合、試合を撮影する許諾を、主催者、球場の所有者、大会参加者（自校の場合は、顧問、監督など、場合によっては、対戦相手校にも）の許諾
- 校歌を番組に使うことについて
校歌を使う場合は、校長の許諾ではありません。作詞者、作曲者、編曲者です。
学校で〇〇周年記念などでCDを制作する際に、今後、曲を使う権利を学校に一任するという形の契約を書類に書いてもらえると、後々トラブルになりませんし、許諾もその紙一枚をコピーすれば済んでしまうとのことです。機会があったら、やってみてください。
近年、学校再編等により有名人に作詞、作曲を依頼しているケースがあります。ご注意ください。
- パソコンの画面を写す場合は、使用しているソフトがわからないようにすればOK
たとえばメールを送信する場面では、使用しているソフトが特定できるような構図はダメ、テキストの部分だけ拡大して何のソフトかわからなければOK
- メインなのか背景なのか、たまたま景色の一部として写ってしまう場合OK
本屋のシーンでたくさんの本が背景に写ってしまう。→1冊1冊に許諾の必要なし
本の表紙がアップで写ってしまう。→許諾の必要あり。必ず文書で許諾を受ける。
自販機の前で撮影、コンビニの前で撮影、看板の前で撮影し、商品名、企業名が写る。
→そこで撮影する必要があるか？別の場所で撮影するか、何か隠す手段を構図を考えたり。
権利関係で、トラブルになりそうな場所ではロケをしない。ロケ場所の事前調査を十分に。
バス、電車内、駅のホームなどでの撮影は所有者（会社）の許可が必要です。
- 手紙を写す場合
出した人ともらった人の両方に許諾を得る。どちらかがすでに死亡している場合は片方だけでよい。
場合によっては現在の所有者にも
- 引用について
新聞の社説は、ラジオ番組でも引用に当たらない場合があるので注意してください。また、記事の最後に担当者の名前が入っている署名記事も注意が必要（下野新聞のほとんどの記事が署名付きになっているので注意が必要）なので新聞社に問い合わせ、文書にて、許諾を得てください。
テレビについては、引用になりません。新聞記事を映像として固定してしまうと記事にかかわらずすべて許諾が必要です。
- 美術品
屋外 公表を前提としているので、許諾の必要なし。ただし、屋外でも鑑賞が有料な物を除く。
屋内 必ず許諾をとる。
- 写真
内容による。人物が写っている場合は、写っている人にも許諾が必要。
→写っている人全員の許諾を得ることが困難な場合は、本人以外の部分をぼかす等の工夫を通常必要だが、古い集合写真などで、写っている人全員の許諾確認をとることが不可能な場合不要だが、所有者の許諾は必要。

NHKのニュースで、取り上げる場合は、番組内で「オリ○○ック」ということについて、ニュース番組で扱うと言うことで包括的に許諾を得ているそうです。
個別にドキュメントを作る場合は、その都度許諾を得ているそうです。

＜テレビドラマで使用する小道具について＞
市販のものを使用する場合は、許諾を受けてください。

＜全国大会での運営等について＞

令和7年度（第72回大会）の審査員等の割当 6名

- ・アナウンス 準々決勝D会場（オリンピックセンター）
- ・朗読 準々決勝A会場（オリンピックセンター）
- ・ラジオドキュメント 準々決勝E会場（オンライン）
- ・テレビドキュメント 準決勝（オリンピックセンター）
- ・ラジオドラマ 準々決勝C会場（オンライン）
- ・番組部門（オンライン審査）の準々決勝予備審査員（オンライン）

全国大会期間

運営委員 1名 大会期間4日間 7月21日（月）～24日（木）の4日間
（今年度は月～水の3日間）

審査員の割り当て 今年度は予備を含めて6名（オリンピックセンターへは3名）

大会初日 7月21日（月）の夕方と審査日の2日間

※準々決勝：22日（火）、準決勝：23日（水）

オンライン審査（番組準々決勝）は、事前にオンラインで審査を行うため、大会期間中の拘束はありません

会場系の割り当て 3名（審査員以外の先生）

- ・ラジオドキュメント会場 ※今年度はテレビドキュメントではありません。

大会初日 7月21日（月）の夕方と7月22日（火）全日の2日間

※会場系は、審査会場のドア整理、会場整理、計時等です。審査員と違いどなたでも可能です。
番組に関する専門的知識、技能は必要ありません。

アナウンス・朗読指導会場（カルチャー棟 栃高文連放送専門部会借り上げ部屋）

- ・部屋の管理（解錠・施錠） 事務局（上三川高校関望美先生）
- ・生徒の技術指導（アナウンス・朗読） 1～2名

都道府県連絡責任者（大会期間中連絡が確実に取れる先生）1名 事務局長（上三川高校関望美先生）
栃木県で借り上げている部屋の番号は、5月の総会資料に掲載されるのでご確認ください。

持続可能なコンテスト運営を検討し、番組部門の準々決勝審査は昨年度と同様にオンライン審査となりました。来年度以降もこの形が続く予定です。

コロナ前に7月に行われていた作品チェックは、なくなりました。準々決勝審査の結果、準決勝に進出する可能性のある作品のみ首都圏（東京、埼玉、千葉、神奈川）の先生方で行われます。問題があれば減点されます。準々決勝で敗退した作品の作品チェックは行われませんが、著作権等に不備がある場合は、チェックされずに公開されてしまいますので、問題が発生した場合は、取り返しがつきません。全責任を制作校が責任を負うことになるので注意してください。

今後とも大会運営にご協力をよろしくお願い申し上げます。

全国推薦になった場合の注意事項

- ・全国大会が終了するまで、番組内容、発表内容が漏れないようにしてください。
新聞社から取材を受けて、番組内容が、どんな内容か記事に載ってしまう。
地方の放送局（NHKを含め民放も）で番組の内容が紹介されてしまう。
インターネット上で発表内容を記事にしまう。等
事前に番組内容、発表内容がわからないようにしてください。